

団体の概要 (N G O / N P O 用)

団体名 NPO 法人エコ・シビルエンジニアリング研究会 - 市民環境村塾

所在地	〒 113 -0033 東京都文京区本郷 4-25-8 猪尾ビル 6 階 TEL 03-3814-5234 FAX 03-3814-5234 E-mail: info@eco-civil-e.jp		
ホームページ	www.eco-civil-e.jp/		
設立年月	2002 年 9 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 2004 年 7 月 14 日		
代表者	柳田 ・ 彦	担当者	柳田 ・ 彦
組 織	スタッフ 10 名 (内 専従 1 名) 個人会員 30 名	法人会員 0 名	その他会員 (賛助会員等) 名
設立の経緯	<p>工学院大学専門学校土木科の講師を中心に有志が集まり、環境問題の解決に向けて力を合わせ、自らも学びつつ、出来ることから社会貢献することを目的として、設立しました。エコ・シビルエンジニアリングという名称は、「環境に配慮した土木技術、広く市民生活技術を学び、その環境的な展開を目指すことにより、何らかの社会貢献をしたい」という意味を込めたものです。今後さまざまな分野から、この趣旨に賛同されるみなさんに参加をいただき“自らも学び、社会に貢献する活動団体へ”との思いを強めています。</p>		
団体の目的	<p>さまざまな分野において、環境問題に関心がある人たち、環境問題に取り組む意識や意欲の高い人たち、さまざまな技術を持った人たちが集まり、お互いの学習の場として研究を重ね、さらに環境問題の解決に関し幅広く専門的な知識を得ながら、共有化していきます。</p> <p>多くの人材と、それぞれの専門的知識やノウハウを活用して、環境教育を行える人材の育成と、小中学校や地方自治体、企業において環境教育を行っていきます。</p> <p>あらゆる環境問題に対し具体的な解決策を企画、提案していきます。さらに具体的な計画を実践に移していきます。</p>		
団体の活動プロフィール	<p>稲城市の“大丸用水”見学 (2002.09.14.) 国立環境研究所見学と温暖化対策専門家による講演 (2003.01.17) 2003 環境シンポジウム in 稲城への参加 (2003.02.09) 波崎の風力発電所、伊能忠敬生家の見学 (2003.05.10 ~ 11) 講演会『東京の魅力空間 = 公園』(第 1 回) 工学院大学専門学校 (2003.06.22) 講演会『東京の魅力空間 = 公園』(第 2 回) 小石川後楽園 (2003.09.21) 講演会『東京の魅力空間 = 公園』(第 3 回) 浜離宮恩賜庭園 (2003.12.07) 講演会『東京の魅力空間 = 公園』(第 4 回) 日比谷公園 (2004.05.30) 講演会 : 環境省担当者に聞く「地球温暖化対策」(2003.07.21) 講演会「いなぎエコ・ミュージ」への参加 (2004.02.07) 「稲城市でホテルを見るツアー」の実施 (2004.07.03-04) 「2003 年 N G O / N P O ・ 企業環境政策提言」で「優秀に準ずる提言」に選ばれた「山小屋における環境対策の把握と対策案の実証試験」に基づき、「山小屋アンケート調査」を実施し、その報告書「山小屋からの環境便り」のとりまとめ (2004.03 ~ 10) その結果を基に「山小屋料理 100 選」の開発普及事業を開始 (2004.09 ~) 稲城市内の生涯学習集団『いなぎ四つ葉会』が主催する“地域自然学校”に協力し、開墾予定地の測量と樹木調査、植生調査を実施 (2004.10 ~) 環境保全型商品「純植物性洗剤ドリーム C-7」の紹介と頒布 (2003.10 ~)</p>		

活動事業費 (平成 15 年度) 600,000 円

政策のテーマ 古に学ぶエコロジカルライフ(省資源、再資源化、少廃棄的生活)

政策の分野

- ・ 持続可能な循環型社会の構築
- ・ 社会経済のグリーン化
- ・ 環境パートナーシップ

政策の手段

- ・ 調査研究、技術開発、技術革新
- ・ 環境教育・学習の推進
- ・ 地域活性化と雇用

団体名：NPO 法人エコ・シビルエンジニアリング研究会 - 市民環境村塾

担当者名：柳田 吉彦

政策の目的

お弁当を包む新聞紙から伝統工芸と呼ばれる手工芸品まで、かつての我々が持っていた古の知恵に学び、省資源、再資源化、少廃棄的な生活に結びつくような技術の再発見、再利用を組織的に行う調査研究を進める。また、これらの古来伝承されている伝統的工芸品や生活用品の多くが優れた環境製品であること科学的に証明し、環境ラベルなどにより地場産業等の振興にも役立てる。

それらの技術や手法を普及のため、イベントの開催や小中学校の教材として利用する。

背景および現状の問題点

温暖化対策をはじめとする危機的な状況にある地球環境問題の解決のため、多くの技術者の手によって技術革新や発明発見の努力が行われている。その一方、市井に暮らす一般の人々が、問題解決のために行えるような対策、解決策は限られている。また、たとえ解決のためとはいえ、強制的で価格や手間など多くの困難が伴うような対策は一般市民の参加を幅広く得ることができず、結局は長続きせず終わってしまう懸念がある。

市井で生活していく人たちが実践するには、わかりやすく、簡単なことで、なおかつ多くの人が参加するならば効果が現れるような解決策が求められる。そのためには、いたずらに未来的な新技術や発明を目指すのではなく、今一歩立ち止まり、過去に学ぶ姿勢が必要ではないだろうか。

江戸時代の都市と農村を結んだ作物と堆肥の連鎖による循環型社会にまでさかのぼらずとも、戦後のかなりの時期まで、我々の生活は省資源、再資源化、少廃棄的であった。八百屋では古新聞紙で商品を包み、それは買い物かごに入れて持ち帰られた。風呂敷は包み運ぶことにおいて万能であった。また大きくは家から家具、道具、食器に至るまで木製品が主であった。それらの生活用品のいくつかは、ブランド的な扱いの元で伝統工芸品として細々と今に生きている。しかし、多くのものは価格や作り手の問題、そして人々の意識の変化によって消え去ろうとしている。

これらの日本人が培ってきた古の技術が完全に忘れ去られてしまう前に、再発見と再利用により光を当て、普及の活動を行うことによって、人々の意識とともに再生させることが望まれる。

政策の概要

STEP 1 古の技術の再発見【省資源・再資源化・少廃棄に役立つ技術の発掘と利用方法の検討】

風呂敷一枚があれば一升瓶2本をきっちりと包み、片手で持ち運ぶことができる。

また、手拭いはお祭りのねじりはちまきをはじめ剣道など、単に手を拭くだけのタオルと違い、たくさんの使い道が考えられる。

割れてしまった瀬戸物をつなぎ合わせる技術もある。金粉を混ぜた漆を使えば、継ぎ目が新たな模様となり、あたらしい作品に生まれ変わることもある。

漆塗りの重箱なども塗り直しが可能だ。

修理の価格と新しく買う値段が問題になるが、思い出など価格を超えた価値があるものなら修理は有効な手段になる。

かつて我々が生活の中で使っていた伝統的な技を、環境の観点から再度見直し、系統だって整理をする。そして、それらを今の時代にあった省資源・再資源化・少廃棄に役立つものとするため、技術の新たな活用方法を開発、研究する。

例・風呂敷によっていろいろな品を包む手法を調査しまとめる。

- ・今まで考えていなかったような手拭いの新しい利用方法を発見する。
- ・環境に役立つ食器の補修など特殊な技術を発掘、調査をし、その応用を考える

STEP 2 古の技術の発展【伝統的技術を応用し、環境に配慮した地場産業の活性化を図る】

伝統工芸品に代表されるようなこのような技術は、再生産可能な自然素材を使い、化石燃料などを余り使わない省資源型の産業である可能性が高い。また、資源の再利用化を促すことにも効果があると考えられる。

このため、地場の農林業などとの連携の道を探りながら、環境配慮型の産業として、町おこしや村おこしの一環として発展させていくことが考えられる。

こうした伝統的な技術から生み出される生活用品や補修技術などが、環境へ寄与している効果を科学的に明らかにするため、工芸品業界と環境関連研究者からなる研究会を設立する。

研究会の成果として、各種環境ラベルの適応をすすめ、積極的に購入や利用がされるように、環境物品（環境負荷低減に資する製品・サービス）として、グリーン購入の対象となるように支援を行う。

また、工芸技術者と地元の農林業者、地方自治体に働きかけ、環境配慮型の産業振興に努める。

STEP 3 古の技術の普及活動【伝統的技術の情報発信と教育への応用】

上記のように環境の観点から見直した伝統的な技術を見直し、広く普及させることが必要である。そのため環境面から考えた時の優位性を広く発信して、その結果多くの市民にこれらの工芸品や日用品を実際に使ってもらう。それによって伝統的な素材（自然素材）を使った伝統品の良さや環境への寄与（省資源・再資源化・少廃棄に役立つこと）を身をもって知ってもらう。また、物を大事にする価値観を養ってもらう。

省資源・再資源化・少廃棄に役立つ、こういった伝統的な技術が普及するように、いろいろな機会を捉え、広く情報発信を行う。また、新しい風呂敷や手拭いの使い方のアイデアなどを市民から募集し、伝統品の活用範囲を広める工夫をする。

また、小中学校の総合学習などにおいて、伝統工芸などの技術を学び、体験する機会をつくる。

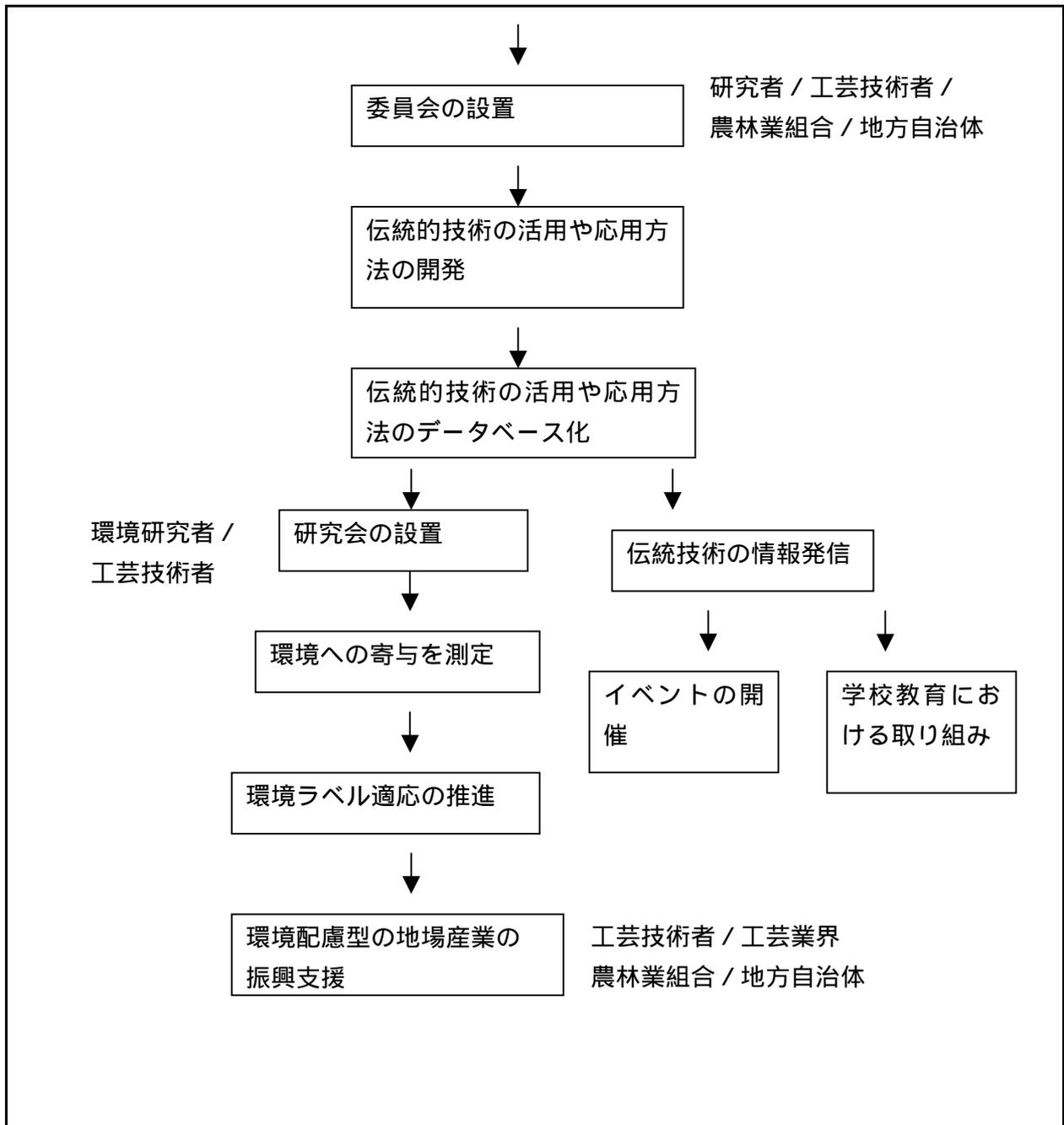
例・買いビニール袋の削減を目指し、風呂敷にまつわるアトラクションとして有名デザイナーのデザインによる風呂敷をつくり、スーパー業界、商店会、風呂敷業界の協力により、風呂敷による買い物デーを作る（風呂敷の日：26日）。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

伝統的技術に関する基礎的な情報の収集



環境の視点を元にした伝統的技術の体系化



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）
 当NPO法人が、基礎的な技術の情報収集から、委員会の設置・運営などを行う。
 また、伝統工芸の発展に力を入れている地方自治体や伝統工芸技術者、伝統工芸業界、農林業の組合、研究者との共同作業が必要である。

- 政策の実施により期待される効果
1. 個人レベルでのライフスタイルの見直しができる。また、これらが広く実践された場合には、持続可能な資源循環型の社会形成の一助となる。
 2. 児童生徒に対しての環境教育の成果として、手作りの大変さや良さを理解し、物を大切に作る心を養える。
 3. 伝統工芸品や伝統技術の環境ラベル化を図り、農林業を含めた環境配慮型地場産業の振興に寄与できる。

その他・特記事項